

令和4年度使用中学校用教科用図書

選 定 資 料

〔社会（歴史的分野）〕

（案）

令和3年6月

広島県教育委員会

目 次

教科用図書選定資料について	1
社 会	2
(歴史的分野)	

教科用図書選定資料について

1 観点及び視点の設定について

この選定資料は、文部科学省の「中学校用教科書目録（令和4年度使用）」に記載された社会（歴史的分野）の教科用図書について、次の五つの観点に基づいて調査研究を行い、特徴を一覧表にしたものです。

- | | |
|-----|---------------|
| 観点1 | 基礎・基本の定着 |
| 観点2 | 主体的に学習に取り組む工夫 |
| 観点3 | 内容の構成・配列・分量 |
| 観点4 | 内容の表現・表記 |
| 観点5 | 言語活動の充実 |

広島県では、平成27年度から広島版「学びの変革」アクション・プランに基づき、主体的な学びの創造を目指しています。

そのため、観点2として「主体的に学習に取り組む工夫」を設定しています。また、引き続き「確かな学力」と「豊かな心」の基盤となる「ことばの力」を児童生徒に確実に身に付けさせることを目的として「ことばの教育」に取り組んでいることから、観点5として「言語活動の充実」を設定しています。

なお、それぞれの観点の下に、種目ごとに学習指導要領の目標に基づき視点を設定しています。

2 記載の順序

選定資料に記載している順序は、文部科学省の「中学校用教科書目録（令和4年度使用）」に登載されている発行者番号順とし、発行者名は次の略称で表しています。

番号	略称	発行者名
2	東書	東京書籍株式会社
17	教出	教育出版株式会社
46	帝国	株式会社帝国書院
81	山川	株式会社山川出版社
116	日文	日本文教出版株式会社
225	自由社	株式会社自由社
227	育鵬社	株式会社育鵬社
229	学び舎	株式会社学び舎

社 会（歴史的分野）

1 調査の対象となる教科書の発行者及び教科書名

発行者の番号及び略称		教科書名
2	東 書	新しい社会 歴史
17	教 出	中学社会 歴史 未来をひらく
46	帝 国	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
81	山 川	中学歴史 日本と世界
116	日 文	中学社会 歴史的分野
225	自 由 社	新しい歴史教科書
227	育 鵬 社	[最新]新しい日本の歴史
229	学 び 舎	ともに学ぶ人間の歴史

2 教科書の調査研究における観点、視点及び調査方法

観点		視点	方法
(ア)	基礎・基本の定着	① 学習課題の示し方	1時間ごとの学習課題の記載の仕方と記載例
		② 我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫	文化遺産の示し方、神話・伝承等に関する記載内容
		③ 国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫	日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数と内容
(イ)	主体的に学習に取り組む工夫	④ 単元の導入における工夫	各単元の導入において、興味・関心をもたせるための工夫の具体例
		⑤ 課題の設定、整理・分析、振り返りを展開するための構成上の工夫	「身近な地域の歴史」で示している調べる手順・方法及び記載の仕方
(ウ)	内容の構成・配列・分量	⑥ 単元や資料等の配列・分量	各時代区分のページ数
		⑦ 主権者育成のための工夫	古代、近代、現代における民主主義の来歴や人権思想の広がりに関する記載内容
(エ)	内容の表現・表記	⑧ 学習内容との適切な関連付けがなされた絵図・写真等の活用	資料の種類と掲載数
		⑨ 掲載されている情報を精選し、視点を明確にする工夫	ユニバーサルデザインに関する配慮がなされたフォント、グラフ、レイアウト等
(オ)	言語活動の充実	⑩ 目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫	単元末における「時代の特色」をまとめる学習の具体例

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	①学習課題の示し方
方法	1時間ごとの学習課題の記載の仕方と記載例

	1時間ごとの学習課題の記載の仕方	記載例
東 書	<p>○見開きごとにタイトルを「律令国家の成立と平城京」「平安京と律令国家の変化」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ 見開き右のページの下段に、「チェック」と「トライ」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。</p>	<p>3節 古代国家の歩みと東アジア世界</p> <p>○ 聖徳太子や蘇我氏は、どのような国づくりを目指したのでしょうか。</p> <p>○ 東アジアの国々との関係の中で、日本はどのような改革を進めていったのでしょうか。</p> <p>○ 律令国家はどのようにしてできあがり、その仕組みはどのようなものだったのでしょうか。</p> <p>○ 律令国家の下で、人々はどのような暮らしをしていたのでしょうか。</p> <p>○ 奈良時代の文化は、どのような特色を持っていたのでしょうか。</p> <p>○ 平安京に都が移り、政治や社会はどのように変わったのでしょうか。</p> <p>○ 平安時代の政治は、どのような特色を持っていたのでしょうか。</p> <p>○ 平安時代の貴族の文化は、どのような特色を持っていたのでしょうか。</p> <p>【「チェック」の例】</p> <p>○ 律令とはどのようなものか、本文からそれぞれぬき出しましょう。</p> <p>【「トライ」の例】</p> <p>○ 律令国家が全国を支配した仕組みを、次の語句を使って説明しましょう。[太政官／国・郡]</p>
教 出	<p>○ 見開きごとにタイトルを「木簡と計帳は語る」「望月の欠けたることもなしと思えば」等の項目で示し、タイトルの右横に「奈良の都と律令制下の人々の暮らし」「平安の都と摂関政治」等の学習内容を表す副題を示している。タイトルの下に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ 見開き右のページの下段に、「確認」と「表現」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。</p>	<p>4節 貴族社会の発展</p> <p>○ 律令制のもとで、都の貴族や地方の農民は、どのような暮らしをしていたのでしょうか。</p> <p>○ 奈良時代には、どのような特色をもった文化が栄えたのでしょうか。</p> <p>○ 律令政治や貴族の勢力は、どのように移り変わっていったのでしょうか。</p> <p>○ 平安時代には、どのような文化が生まれたのでしょうか。</p> <p>【「確認」の例】</p> <p>○ 墾田永年私財法が出された背景を確かめよう。</p> <p>【「表現」の例】</p> <p>○ 奈良時代の「朝廷、貴族、農民」の関係を、税の流れに注目して、図に表して説明しよう。</p>

【社会（歴史的分野）】

<p>帝 国</p>	<p>○ タイトルを「律令国家を目指して」「律令国家での暮らし」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのように」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ 見開き右のページの下段に「確認しよう」と「説明しよう」を設定し、学習課題に対応した2段階の学習活動を示している。</p>	<p>3節 中国にならった国家づくり</p> <p>○ 蘇我氏や聖徳太子は、国づくりのためにどのような改革を行ったのだろうか。</p> <p>○ 東アジア諸国との関係のなかで、倭国（日本）はどのような改革を進めたのだろうか。</p> <p>○ 奈良時代の土地と税の制度にはどのような特徴があったのだろうか。</p> <p>○ 奈良時代にはどのような特色を持った文化が展開したのだろうか。</p> <p>【「確認しよう」の例】</p> <p>○ 奈良時代の初め、人々がどのような税を担ったのか、本文から五つ書き出してみよう。</p> <p>【「説明しよう」の例】</p> <p>○ 班田収授法と墾田永年私財法の違いを説明し、その違いが社会に与えた影響を説明してみよう。</p>
<p>山 川</p>	<p>○ タイトルを「律令国家の仕組みと人々の暮らし」「平城京と天平文化」等の項目で示し、タイトルの下に「どのような」「なぜ」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ ページの下段に「ステップアップ」を設定し、さらなる課題追究に向けた発問や学習活動を示している。</p>	<p>3節 律令国家の形成</p> <p>○ 聖徳太子（厩戸皇子）は、どのような国づくりを目指したのだろうか。</p> <p>○ 7世紀の倭では、なぜ朝廷に政治権力を集中させようとしたのだろうか。</p> <p>○ 朝廷に権力が集中する中で、天皇と豪族との関係はどのように変化したのだろうか。</p> <p>○ 律令国家は、どのような仕組みで地域と人々を支配したのだろうか。</p> <p>○ 中国や朝鮮半島との交流は、日本にどのような影響をあたえたのだろうか。</p> <p>【「ステップアップ」の例】</p> <p>○ 墾田永年私財法は、律令国家にとってどのように役立つのか、考えてみよう。</p>
<p>日 文</p>	<p>○ タイトルを「奈良の都と人々の暮らし」「摂関政治と国風文化」等の項目で示し、タイトルの下段に「律令に基づく統治のしくみ」「日本らしい文化の始まり」等の学習内容を表す副題を示している。タイトルの左横に「どのような」「なぜ」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ ページの下段に、「確認」を設定し、学習課題に対応した問いを示している。</p>	<p>3 古代国家の展開</p> <p>○ 律令国家には、どのような特徴があるのでしょうか。</p> <p>○ 東大寺正倉院には、なぜ西アジアなどの外国の宝物が納められているのでしょうか。</p> <p>○ 多くの時間や資材をかけて奈良に築かれた都は、なぜ100年もたたないうちに、京都に移されたのでしょうか。</p> <p>○ 平安時代中ごろの文化の特色と天平文化の特色には、どのようなちがいがあるのでしょうか。</p> <p>【「確認」の例】</p> <p>○ 「税」という言葉を使って、朝廷の国づくりのねらいと当時の人々の生活を説明しましょう。</p>

【社会（歴史的分野）】

<p>自由社</p>	<p>○ タイトルを「古代律令国家の完成と平城京」「平安京と摂関政治」等の項目で示し、タイトルの下に「どのような」「なぜ」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ 見開き右ページの下段に、「チャレンジ」を設定し、学習課題に対応した学習活動を示している。</p>	<p>第3節 律令国家の形成</p> <p>○ 聖徳太子が新しい政治を始める背景は何だったのだろうか。</p> <p>○ 聖徳太子の対等外交と天皇という称号の間には、どんな関係があったのだろうか。</p> <p>○ 蘇我氏はどのようにして倒され、天皇中心の国づくりが進んだのだろうか。</p> <p>○ 白村江の戦いでの敗北は、律令国家の建設にどんな意味をもったのだろうか。</p> <p>○ 日本の古代律令国家には、唐の制度と比べてどのような独自性があったのだろうか。</p> <p>○ 7～8世紀の飛鳥、天平の文化には、どのような特徴があったのだろうか。</p> <p>○ 摂関政治はどのようにして成立したのだろうか。</p> <p>○ 平安時代に国風文化が開花したのはなぜだろうか。</p> <p>【「チャレンジ」の例】</p> <p>○ 唐の律令国家と日本の律令制の違いを説明してみよう。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>○ 見開きごとにタイトルを「大宝律令と平城京」「平安京と摂関政治」等の項目で示し、タイトルの右横に「どのような」「どのようにして」等の問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。</p> <p>○ 見開き右ページの下段に、「えんぴつ」マークを付し、学習課題に対応した学習活動を示している。</p>	<p>第2節 「日本」の国の成り立ち</p> <p>○ 聖徳太子はどのような考えをもとに政治を行ったのだろうか。</p> <p>○ 大化の改新はどのような国づくりをめざしたものであったのだろうか。</p> <p>○ 飛鳥文化・白鳳文化はどこの国の影響を受けて成立したのだろうか。</p> <p>○ 律令国家はどのようなしくみを持ち、人々はどのように暮らしていたのだろうか。</p> <p>○ 天平文化はどのような特色を持っていたのだろうか。</p> <p>○ 平安時代の天皇や貴族の政治はどのようなものだったのだろうか。</p> <p>○ 国風文化はどのようにして生まれ、どのように発展していったのだろうか。</p> <p>【「えんぴつ」マークの例】</p> <p>○ 律令国家のしくみについて、次の語句を使って説明しましょう。【天皇／国司／貴族／律／令】</p>

【社会（歴史的分野）】

学 び 舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 見開きごとにタイトルを「奈良の都」「北で戦い、都をつくる」等の項目で示し、タイトルの右横に「律令制の成立」「平安京と地方の政治」等の学習内容を表す副題を示している。タイトルの下段に「どんな」「なぜ」等問いかけの形態で1時間の追究する課題を示している。 	<p>第2章 日本の古代国家</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仏教の導入で、超高層の寺院が出現。そのあと倭国は、ゆるる東アジアにどう立ち向かうのか。 ○ 都に大量の品物が運ばれてきた。どんなしくみができたのか。国の内外にどんな変化があらわれたか。 ○ 口分田で農業に取りくむ人びとは、防人のほか、税としてどんな負担をしいられていたか。 ○ 伎楽や正倉院宝物、鑑真の来日からどんなことがわかるか。歴史書はなぜつくられたのか。 ○ バグダッドにはどんな人たちが集まってきたか。イスラムではどんな文化が生まれたか。 ○ 新しい都・平安京ができた。東北で、都や地方で、どんなことがおこなわれるようになったか。 ○ 紫式部と清少納言はどんなことを書いたのか。このころの文化にはどんな特色があるだろう。
-------------	---	---

観点	(ア) 基礎・基本の定着
視点	②我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫
方法	文化遺産の示し方、神話・伝承等に関する記載内容

	文化遺産の 示し方	神話・伝承等に関する記載内容
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「国宝」「重要文化財」「世界遺産」「世界の記憶」「無形文化遺産」のマークが付いている。 ○ 巻頭の見開きに「日本の国宝・重要文化財」がまとめられている。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国家の仕組みが整い、国際的な交流が盛んになると、日本の国のおこりや、天皇が国を治めることの由来を説明しようとする動きが朝廷の中で起こりました。そこで、神話や伝承、記録などを基に歴史書の『古事記』と『日本書紀』が作られました。また、全国に命じて、自然・産物・伝承などを記した『風土記』が国ごとに作られました。」 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「現代に生きる神話」 2ページにわたって、「『記紀神話』の成立」「『記紀神話』の展開」「日本の神話と世界の神話」「島根県と神話」「宮崎県と神話」を記載している。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に「世界遺産」「国宝」「重要文化財」のマークが付いている。 	<p>【本文】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「国際的な交流が盛んになると、天皇が日本を治める由来を説明する歴史書として、神話や国の成り立ちを記した『古事記』・『日本書紀』がまとめられました。また、地方の国ごとに、地理や産物、伝承などを記した『風土記』もまとめられました。」 <p>【特設ページ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「神話にみる古代の人々の信仰」 2ページにわたって、「日本の神話」「古事記に記された黄泉の国の物語」「神話にみる古代の人々の信仰ともの見方」を記載している。

【社会（歴史的分野）】

<p>帝 国</p>	<p>○ 資料に「世界遺産」「世界の記憶」「国宝」のマークが付いている。 ○ 巻末の折り込みに「日本の世界遺産」を地図とともにまとめている。</p>	<p>【本文】</p> <p>○ 「天皇が日本を治めることの正統性を明らかにしようとする動きも起こり、天皇家の由来を説明するための歴史書として『古事記』や『日本書紀』が作られ、数々の神話がそこへ記されました。また、天皇が支配するすべての土地の地理的な情報を集めるため、産物や地名の由来、伝承などを国ごとにまとめた『風土記』も作られました。」</p> <p>【コラム】</p> <p>○ 『古事記』と『日本書紀』が伝える神話 「古事記」と「日本書紀」の内容等について記載している。</p>
<p>山 川</p>	<p>○ 資料に「世界遺産」「国宝」のマークが付いている。 ○ 巻頭に「日本の世界遺産」を地図とともにまとめている。</p>	<p>【本文】</p> <p>○ 「律令国家が確立すると、天皇の由来や、天皇が国家をおさめる正当性を示すために、歴史書の編さんが行われた。天武天皇が命じた歴史書の編さん事業を引きつぎ、奈良時代には『古事記』と『日本書紀』が完成した。『古事記』は、神話の時代から推古天皇の時代までの、天皇の起源を説明する物語をまとめたものである。『日本書紀』は、中国の歴史書にならって漢文で書かれた最初の歴史書で、神話の時代から持統天皇の時代までの歴史がまとめられた。このほか、諸国には、国内の産物や地名の由来、古くからの伝承などを報告することが命じられ、これらを記した『風土記』がつくられた。」</p> <p>【コラム】</p> <p>○ 「日本の神話」 「古事記」、「日本書紀」や「風土記」の内容等について記載している。</p>
<p>日 文</p>	<p>○ 資料に「国宝」「世界遺産」のマークが付いている。 ○ 巻末の折り込みに「日本の世界遺産」を地図とともにまとめている。</p>	<p>【本文】</p> <p>○ 「律令国家のしくみが整うにつれて、国家のおこりや天皇・貴族の由来などを説明するために、『古事記』や『日本書紀』などの歴史書がつくられました。このほか、全国の国ごとに、自然・地理・産物や伝説などを集めた『風土記』がまとめられました。」</p> <p>【特設ページ】</p> <p>○ 「日本の神話」 1ページを使い、「神話とは何か」「『古事記』『日本書紀』の神話」「さまざまな神話」を記載している。</p>

【社会（歴史的分野）】

<p>自由社</p>	<p>○ 資料に「国宝」「重要文化財」「世界遺産」のマークが付いている。</p> <p>○ 巻頭に「日本の世界文化遺産」を地図とともにまとめている。</p>	<p>【本文】</p> <p>○ 「日本の国の成り立ちは、8世紀に完成した日本最古の歴史書である『古事記』『日本書紀』に、神話の形で書かれています。神話や伝承は超自然的な物語をふくみ、また後世に改変された部分もあって、ただちに歴史的事実として扱うことはできません。</p> <p>しかし、これらの神話・伝承のものは、古代の人々が、自分たちの住む国土や自然、社会の成り立ちを、山や海への自然崇拜や、稲作祭祀など縄文・弥生以来の信仰なども取り入れながらまとめたものと考えられます。神々が織りなす物語は一貫したストーリーに構成され、大和朝廷の始まりにつながっています。」</p> <p>○ 「712年に『古事記』が完成し、全3巻の中に、民族の神話と歴史がすじみち立った物語としてまとめられました。次いで、720年には『日本書紀』全30巻が完成し、日本国家の正史として、歴代の天皇の系譜とその事績が年代順に詳細に記述されました。」</p> <p>【特設ページ】</p> <p>○ 「国譲り神話と古代人」</p> <p>2ページにわたって、「大国主神の『国譲り』」等を記載している。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>○ 資料に「国宝」「世界遺産」のマークが付いている。</p> <p>○ 巻頭や巻末で、世界遺産や国宝を紹介している。</p>	<p>【本文】</p> <p>○ 「律令国家としての基礎ができあがるにつれ、わが国の歴史が書物としてまとめられるようになりました。神々の物語や代々の天皇の業績を記した『古事記』や、国の正史として代々の天皇やその業績を記した『日本書紀』がそれにあたります。また、朝廷の命令によって、各地の地理や産物、伝説などを記した『風土記』もつくられました。」</p> <p>【特設ページ】</p> <p>○ 「神話に見るわが国誕生の物語」</p> <p>2ページにわたって、「日本の神々の物語」「三種の神器と神武天皇」「伝説の英雄が活躍する神話」を記載している。</p>
<p>学び舎</p>	<p>○ 世界遺産や国宝、史跡を写真や地図で紹介している。</p> <p>○ 近世後半の導入ページにおいて「世界遺産に見る世界」で世界遺産を紹介している。</p>	<p>【本文】</p> <p>○ 「朝廷は8世紀の前半に、中国の正史にならった歴史書の『日本書紀』を、神話の記録として『古事記』を完成させました。これらは、古くからの伝承もふくんでいます。天武天皇が、国の統一をすすめる目的で編さんを命じていたものです。ここには、太陽の女神とされる天照大神が、天から地上に神々をつかわし、その子孫が国を制圧して、最初の天皇になったという神話が書かれています。東アジアの国々に対しても、天皇がこの国を治める正当性をしめそうとしたものです。また、国ごとに言い伝えられたことをしるした『風土記』もまとめられ、出雲国（島根県）や常陸国（茨城県）などのものが残っています。」</p> <p>【コラム】</p> <p>○ 「『常陸国風土記』に書かれた富士山と筑波山」</p> <p>常陸国風土記に記された内容等について記載している。</p>

【社会（歴史的分野）】

観点	(ア) 基礎・基本の定着	
	視点	③国際社会で主体的に生きていくための基盤となる知識・技能を身に付けさせる工夫
	方法	日本に影響を与えた文化交流に関するコラム等の数と内容

	時代区分 (コラム等の数)	コラム等の内容
東 書	古代（1）	○ 年中行事
	中世（2）	○ 堺の自治 ○ 東アジア世界の国々の交流と琉球文化
	近世（3）	○ 朝鮮人陶工と日本の陶磁器文化 ○ 朝鮮通信使が訪れた対潮楼 ○ アイヌの文化とその継承
	近代（3）	○ 錦絵から文明開化の様子をとらえよう ○ メディアの発達が日本を変えた ○ オリンピック・パラリンピックと日本
教 出	古代（1）	○ 神話にみる古代の人々の信仰
	中世（1）	○ 宋と高麗
	近世（3）	○ 銀で結びつく世界 ○ 宣教師が見た日本 ○ 野國總管と青木昆陽
	近代（1）	○ 琉球とアイヌの文化を伝えた人たち
	現代（1）	○ 点字の始まり
帝 国	古代（4）	○ 上野三碑に見る渡来人の影響 ○ キトラ古墳に見る中国の思想 ○ 衣服の変遷 ○ 「古事記」と「日本書紀」が伝える神話
	中世（4）	○ 北と南を襲ったもう二つの蒙古襲来 ○ 東アジアに開かれた窓口 博多 ○ 東アジアの美、磁器 ○ 生活を変えた木綿
	近世（3）	○ 朝鮮半島から伝わった文化 ○ 琉球とアイヌの人々の暮らし ○ 昆布ロードと北前船
	近代（7）	○ 幕府の「近代化」への対応 ○ 世界に開かれた港 横浜 ○ 「絹の道」と日本の製糸業 ○ ハーンと濱口梧陵の「稲むらの火」 ○ 国旗と国歌 ○ 祖国の音楽を紹介したドイツ兵 ○ 人々を魅了した洋菓子文化
山 川	古代（3）	○ 中国の記録に見る日本列島 ○ 日本の神話 ○ 神仏習合
	中世（4）	○ 海に眠っていた貿易船 ○ 琉球の歴史と文化 ○ アイヌ民族の歴史と文化 ○ 木綿栽培
	近世（1）	○ 砂糖
	近代（2）	○ 近代日本と女子留学生 ○ 「蛍の光」

【社会（歴史的分野）】

日 文	古代（2）	○ 儒教 ○ 朝貢・冊封とは何か
	中世（2）	○ 宋と高麗 ○ 東大寺の再興と重源
	近世（4）	○ つながる世界と生活の変化 ○ 活版印刷の始まり ○ 雨森芳洲 ○ こんぶはめぐる
	近代（1）	○ 近代社会に日本をみつめ直す
	現代（2）	○ 在日韓国・朝鮮人の歴史と 코리아タウン ○ オリンピック・パラリンピックの歴史
自 由 社	古代（1）	○ 孔子と儒教
	近世（1）	○ 秀吉はなぜバテレン追放令を出したのだろうか
	近代（4）	○ ドイツの発展 ○ 「蛍の光」と国境 ○ 太陰暦から太陽暦に ○ フランス料理と黒の喪服
	現代（2）	○ 水泳ニッポンと 1964 年の東京五輪 ○ ビートルズの来日
育 鵬 社	古代（4）	○ ローマ帝国と日本の古墳時代 ○ 日本人の宗教観 ○ かな文字の発達 ○ なでしこ日本史その 1
	近代（3）	○ 外国人が見た日本 ○ お雇い外国人 ○ なでしこ日本史その 4
	現代（1）	○ オリンピック・パラリンピックと万博のレガシー
学 び 舎	古代（2）	○ 今も読まれる孔子の「論語」 ○ 中国の歴史書に書かれた卑弥呼
	中世（4）	○ 博多に住みついた中国商人たち ○ 帯と扇のネットワーク ○ アイヌの人びとがになう北方の交易 ○ 大仏再建の熱狂
	近世（4）	○ ザビエルとアンジロー ○ 琉球王国の使節 ○ 長崎に荷揚げされた砂糖 ○ ラクスマンと大黒屋光太夫
	近代（3）	○ 郷学校から公立小学校へ ○ 6歳の女子留学生 ○ 「モダン・タイムス」と「独裁者」
	現代（3）	○ 微力だけど無力じゃない ○ 東京オリンピック ○ インディアラがやってきた

【社会（歴史的分野）】

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	④単元の導入における工夫
方法	各単元の導入において、興味・関心をもたせるための工夫の具体例

具体例（近世の日本）	
東 書	<p>【構成の概要】 見開き2ページにわたり、絵図と人物や歴史的事象のイラストを用いた年表を掲載し、資料の読み取りやグループ学習について示している。また、キャラクターの問いにより、章及び各節の学習課題を導くよう構成している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章の学習課題 「近世では、どのようにして社会が安定したのでしょうか。」 ○ 各節の学習課題 <ul style="list-style-type: none"> ・「ヨーロッパ人との出会いを経て、なぜ戦乱の世が終わりをむかえたのでしょうか。」 ・「なぜ江戸幕府の支配は約260年も続いたのでしょうか。」 ・「産業や文化が発達し、都市が繁栄する中で、なぜ幕府は改革をせまられたのでしょうか。」 <p>【資料】 ・絵図（①さまざまな身分の人たち、②参勤交代、③新しい農具、④歌舞伎） ・年表</p> <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「①のA～Dにえがかれているのはどの身分の人たちか、またどのような様子がえがかれているか、それぞれ読み取りましょう。」 ・「②～④は、それぞれどの身分の人たちに関係するものか考えましょう。」 ・「①～④から、それぞれの身分の人たちの暮らしについてどのようなことが分かるか、グループで話し合ひましょう。」 ・「資料や年表から、この時代について、知りたいことや疑問に思うことを出し合ひましょう。」
教 出	<p>【構成の概要】 1ページを使い、絵図で歴史的事象を示すとともに、年表でこれから学習する時代を示している。また、キャラクターの話し言葉から章の学習課題を導くよう構成している。さらに、見開き2ページにわたり、絵図と絵図に係るキャラクターの問いを掲載している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 章の学習課題 「上の絵は、17世紀前半の江戸城とその周辺の様子です。左の貨幣は、17世紀の初めにつくられ、全国で使われるようになりました。このような変化がなぜ起こったのか、学習していきましょう。」 <p>【資料】 ・絵図（江戸城、寛永通宝と慶長小判、江戸図屏風、江戸のまち①～⑤） ・年表</p> <p>【資料に係る学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「①～⑤には、どのような場面が描かれているのでしょうか。」 ・「中世と比べて変わったところ、中世から変わっていないところをそれぞれ考えてみましょう。」 ・「中世から社会がどのように変化していったのか、予想してみましょう。」

【社会（歴史的分野）】

<p>帝 国</p>	<p>【構成の概要】 導入の特設ページは設けられていないが、タイトル下に章の学習課題を示している。 また、小単元の導入に「タイムトラベル」という見開き2ページの特設ページにより、絵図で歴史的事象を示すとともに、絵図の人物を用いた年表を掲載している。資料読み取りの活動を示している。</p> <p>○ 章の学習課題 「全国を統一する安定した政権を成立させたものは何か。」</p> <p>【資料】 ・絵図 ・年表</p> <p>【資料に係る学習活動】</p> <p>○ 「室町時代と比べると、どのような点に変化し、どのような共通点があるでしょうか。」</p> <p>○ 「次の場面を探してみよう！」 ・「城のシンボルとなる天守が、建てられています。」 ・「城の周囲に、家来の屋敷が広がっています。」 等</p>
<p>山 川</p>	<p>【構成の概要】 見開き2ページにわたり、年表で、これから学習する内容を日本史と世界史に分けて示すとともに、単元全体に係る説明を掲載している。また、日本史と世界史の主な歴史的事象の写真や絵図を掲載している。</p> <p>○ 章の学習課題 「対外関係をふまえ、政治の展開や社会の変化、文化の発展を学んでいきましょう。」</p> <p>【資料】 ・写真（姫路城、オスマン帝国の都となったイスタンブルの街、サン=ピエトロ大聖堂、ヴェルサイユ宮殿、タージ=マハル） ・絵図（長篠の戦い、南蛮人と南蛮貿易、検地、湯島聖堂における講義、オランダ正月、出帆を待つ菱垣廻船、大塩の乱、「最後の晩餐」、コロンブスの上陸、エリザベス1世） ・年表</p>
<p>日 文</p>	<p>【構成の概要】 見開き4ページにわたり、絵図等によって歴史的事象を示し、次の見開き2ページで、「15世紀の世界と日本」というタイトルとともに、絵図、地図、年表、写真を掲載している。</p> <p>○ 章の学習課題 「近世の江戸幕府と、中世の室町幕府の将軍の建物を比べて、どうしてこんなに大きさがちがうのか、この単元ではそのなぞを解いていきましょう。そして、『近世』とはどのような時代か、政治、社会、文化、外交の面で、これまでの時代とのちがいは何かなど、自分の言葉で説明できることをめざしましょう。」</p> <p>【資料】 ・絵図（江戸図屏風の日本橋付近のようす、室町幕府の将軍が政治を行った町のようす、江戸幕府の将軍が政治を行った町のようす、ムスリム商人の船） ・地図 ・年表 ・写真（イスタンブール、香辛料）</p> <p>【資料に係る学習活動】</p> <p>○ 「400年前の江戸の町を読み取ろう」 ・「町は、どのような形に区割りされているかな。」 ・「橋のたもとにある木戸は、何の役割があるのかな。」 等</p> <p>○ 「16世紀前半の京都を読み取ろう」 ・「室町幕府の将軍と補佐役の管領の屋敷を見つけましょう。」 ・「将軍と管領の屋敷を見比べて、大きさや建物の特徴を読み取りましょう。」</p> <p>○ 「17世紀前半の江戸を読み取り、中世と近世の将軍の建物を見比べよう」 ・「江戸幕府の将軍と家臣の大名の屋敷を見つけよう。」 ・「将軍と大名の屋敷を見比べて、大きさや建物の特徴を読み取りましょう。」 等</p> <p>○ 「地図を読み取ろう」 ・「P. 82の地図と比べて、ユーラシア大陸の国はどのように変化しているのかな。中国やヨーロッパ、そのあいだにあるイスラム世界に注目して読み取りましょう。」</p>

【社会（歴史的分野）】

<p>自由社</p>	<p>【構成の概要】 1 ページを使い、近世に関する絵図を示したり、キャラクターの言葉で学習活動を示したり、また近世の人物の絵図を時代順に示している。</p> <p>【資料】 ・絵図（三浦屋の高尾，タンギー爺さん，五十三次名所図会 石薬師，雲竜打掛の花魁，ザビエル，織田信長，豊臣秀吉，徳川家康，徳川綱吉，徳川吉宗，歌川広重，本居宣長，杉田玄白，伊能忠敬）</p> <p>【資料に係る学習活動】 ・「あら，うしろに日本の浮世絵みたいな絵が見えるわ！ どういうことかしら？」</p>
<p>育鵬社</p>	<p>【構成の概要】 1 ページを使い、絵図等で歴史的事象や、全ての歴史学習の中のどの期間の学習をするかが分かる年表や、キャラクターの言葉を掲載している。次の見開き2ページにわたり、歴史的な事象を時系列で掲載している。さらに、見開き2ページにわたり、絵図から江戸の町づくりについて読み取る学習活動を示している。</p> <p>○ 章の学習課題 「近世は，最初は外国との貿易がさかんに行われますが，やがて鎖国が行われます。なぜそうなったのか，学んでいきましょう。」 「町人たちは，どんな活躍をしたのでしょうか。これから近世について学んでいきましょう。」</p> <p>【資料】 ・絵図（朱印船，歴史絵巻，江戸図屏風） ・年表 ・グラフ（三都の人口の推移） ・写真（タイのアユタヤに立つ石碑）</p> <p>【資料に係る学習活動】 ○ 「この絵から，どんなことが分かるかな？」 ・「日本橋がかかる川の両岸では，どんなものが荷あげされたり，積荷されたりしているのでしょうか？」 ・「日本橋の右手には，大店と呼ばれる大きな館が軒を連ねています。そこではどんな人たちが何をしていますか？ 建物にはどんな特徴がありますか？」 ・「どんな身分・職業の人たちがえがかれていますか？ それはどんなところから分かりますか？」 ・「このころの日本橋の町の区画は，どのようになっていたのでしょうか？」 ・「日本橋の左側には，高札（立て札）がえがかれています。高札はどんなことに使われていたのでしょうか？」</p>
<p>学び舎</p>	<p>【構成の概要】 見開き2ページにわたり，年表スケールや歴史的な事象を示す写真や絵図を掲載している。また，それぞれの歴史的な事象が関連する位置を，掲載した地図に示している。</p> <p>○ 章の学習課題 「海洋を行き来して，遠く離れた国と国がつながります。人びとの交流が新しい時代を開きます。地域と地域がつながって，新しい文化が育ちます。天下を統一した武将たち，力をつけた百姓・町人たちの姿を見ていきましょう。地域に残る歴史の跡や資料からも，当時の人びとの生活を見ることができます。近世の新しい動きを，さまざまな角度から考えてみましょう。」</p> <p>【資料】 ・年表 ・地図 ・絵図（鉱山で働かされるアメリカ先住民，奴隷い船の内部のようす，イスタンブールの天文台，南蛮船から下ろされた荷物） ・写真（トマト・トウモロコシ・トウガラシ，コショウの実，石見銀）</p>

観点	(イ) 主体的に学習に取り組む工夫
視点	⑤課題の設定，整理・分析，振り返りを展開するための構成上の工夫
方法	「身近な地域の歴史」で示している調べる手順・方法及び記載の仕方

具体例	
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史へのとびら」に「2節 身近な地域の歴史」を設け，調べ学習における，学習のポイントについて示している。 ・各大項目の終わりに，「地域の歴史を調べよう」というコーナーを設け，身近な地域の調べ学習の例を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマを決めて調査・考察しよう <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマの設定 2 調査 <ul style="list-style-type: none"> ・主な調査方法 ・書籍で調べよう（歴史上の出来事を調べる，時代や年代から調べる，人物・地名を調べる，郷土史を調べる） ・インターネットで調べよう（役に立つウェブページ，利用上の注意） 3 考察 2 まとめと発表をしよう <ol style="list-style-type: none"> 4-①まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・主なまとめの方法 ・レポートにまとめよう（レポートの構成，まとめ方のポイント） ・歴史新聞にまとめよう（歴史新聞の作り方，まとめ方のポイント） 4-②発表 <ul style="list-style-type: none"> ・発表の流れ 5 ふり返り
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史のとらえ方・調べ方」に「2節 身近な地域の歴史」を設け，調べ学習における，学習のポイントについて示している。 ・各大単元において，「身近な地域の歴史を調べよう」というコーナーを設け，身近な地域の調べ学習の例を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマを決めよう <ul style="list-style-type: none"> ・調査全体の見通しを立てよう ・小学校で学んだ人物や，地域に関わりのある人物 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の遺跡や文化財 ・地域の風景や地名 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事や風習 ・地域の産物 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的なできごとや，地域に伝わる昔話 2 情報を集めよう <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館を活用しよう（調査に役立つ図書，図書の分類） ・インターネットを活用しよう（インターネットの検索，利用するときの注意点） 3 具体的な調査の課題を決めよう <ul style="list-style-type: none"> ・意見を共有して，アイデアをまとめよう（意見を出し合って共有する，ブレインストーミング，意見を整理して，アイデアをまとめる） 4 野外調査・聞き取り調査を進めよう <ul style="list-style-type: none"> ・調査計画書を作ろう（調査テーマ，調査で確かめたいこと，調査方法） 5 整理して考察しよう 6 調査の結果をまとめよう <ul style="list-style-type: none"> ・レポートをまとめよう（序論，本論，結論，参考資料） 7 発表して，学習を振り返ろう

【社会（歴史的分野）】

<p style="text-align: center;">帝 国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1部 歴史のとらえ方と調べ方」に「第2節 歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」を設け、調べ学習における、学習のポイントを示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史の謎を探る～博物館に行ってみよう～ <ul style="list-style-type: none"> ・小学校などで学んだ地域の人物から ・身近な人の話や言い伝えから ・地域の気になる建物・風景から ・地域の遺跡・遺物から ・地域の行事・風習から ・情報の集め方（図書館、博物館・資料館、インターネット） 2 資料をよく見てヒントを探そう～ヒントを探してみよう～ <ul style="list-style-type: none"> ・並んでいる展示品からヒントを探してみよう ・学芸員さんに質問してみよう ・新たな発見をしに行こう ・地図の作り方・年表の作り方 ・野外・聞き取り調査のしかた 3 謎解きの答えをまとめよう～自分の考えを表現しよう～ <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確にしよう ・具体的に示す時に使うもの ・レポートのまとめ方、発表の仕方（疑問や謎、自分の推理、分かったこと、結論、発表のときに注意すること、内容面で注意すること）
<p style="text-align: center;">山 川</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1章 歴史との対話」に「2節 身近な地域を調べよう」を設け、調べ学習における、学習のポイントについて記述している。 ・各大単元において、「地域からのアプローチ」というコーナーを設け、身近な地域の調べ学習の例を示している。 ○ 調べる手順・方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 テーマを設定しよう！ <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを見つけるには 2 さあ調査だ！ <ol style="list-style-type: none"> (1) 図書館を利用しよう <ul style="list-style-type: none"> ・図書館での文献調査 (2) 荒川ふるさと文化館に行ってみた <ul style="list-style-type: none"> ・博物館の展示品と展示図録 (3) インターネットで昔の地図を見てみた <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブページの信頼性 ・古い地図を入手するには (4) 聞き取り調査をしよう <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り調査の注意点 (5) フィールドワークで道灌山周辺を実際に歩いてみた <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの注意点 3 レポートをつかって発表しよう！ <ol style="list-style-type: none"> (1) レポートにまとめよう <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの書き方 ・参考文献 ・引用と盗用 (2) 発表しよう <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい伝え方 ・スライドの作り方

【社会（歴史的分野）】

<p>日 文</p>	<p>○ 記載の仕方 ・各大単元において、「でかけよう！地域調べ」というコーナーを設け、調べ学習における、学習のポイントを示している。</p> <p>○ 調べる手順・方法 第2編…「史跡見学に行こう 平城宮跡を歩く」 1 計画を立てて、事前の学習をする ・史跡見学のしかた（事前調査・現地調査・持ち物） 2 実際に歩いてみる 3 体験した感想をまとめ、意見を出し合う 第3編…「歴史博物館に行こう 草戸千軒町遺跡を調べる」 1 草戸千軒町遺跡について調べる 2 歴史博物館で調べる ・博物館の見学のしかた（見学するにあたって・チェックリストを作成する） 3 調べたことを深める 4 調べたことをまとめる ・歴史新聞づくりのポイント（基本設定・紙面づくり） 第4編…「城下町を訪ねよう 城下町姫路を調べる」 1 17世紀の姫路のようすを読み取る ・読み取りのポイント 2 現在の地形図を見て、近世の城下町のなごりを探す 第5編 第1章…「近代化遺産を訪ねよう 富岡製糸場を調べる」 1 富岡製糸場の生い立ちを調べる 2 富岡製糸場の役割について考える 3 世界の文化遺産へ 第5編 第2章…「戦争遺跡を訪ねよう 大阪の空襲を調べる」 1 体験者の記録を読む 2 戦争遺跡を訪ねる ・戦争遺跡の見学のしかた（事前調査・現地調査） 第6編…「地域の環境の歴史を調べよう 公害克服の歴史を調べる」 1 北九州市の発展と公害の発生 2 青空がほしい 3 公害をのりこえた経験を生かして</p>
<p>自 由 社</p>	<p>○ 記載の仕方 ・「序章 歴史のとらえ方」に「第3節 地域の歴史を調べる」を設け、大阪府堺市に関する調べ学習の具体的な例を4つ示している。</p> <p>○ 調べる手順・方法 ・「地域（大阪府堺市）の歴史を調べる」において、A～D班の4つの班に分かれて調査を行った内容を、それぞれがまとめた文章として掲載している。</p> <p>A班 古墳を調査 B班 港を調査 C班 千利休の屋敷跡を調査 D班 堺事件を調査</p>
<p>育 鵬 社</p>	<p>○ 記載の仕方 ・序章及び第4章において、「地域の歴史を調べてみよう」というコーナーを設け、調べ学習における、学習のポイントを示している。</p> <p>○ 調べる手順・方法 地域の歴史を調べてみよう①…「大阪の歴史」 1 助言をいただく 2 事前調査 3 調査テーマと調査のねらいの明確化 4 調査活動 ・学芸員など、話を聞きたい人への連絡のしかた ・調査活動を行う際に便利な道具 ・調査のまとめ方（調査レポートの書き方） 5 「発表の仕方」のコツ 6 歴史ワクワク調査隊・6つの心得（①史料は、古い時代を知るための「手がかり」、②人の暮らしの原点を見つめる、③変化に注目する、④視点や立場を変えて見てみる、⑤年表、比較表、ウェビングマップ、地図などを作る、⑥自分なりの歴史の見方を発表し、さらに考えを深める）</p>

【社会（歴史的分野）】

学 び 舎	○ 記載の仕方
	・「歴史への案内」のコーナーにおいて、地域の博物館での調べ学習や現地調査における、学習のポイントを示している。
	○ 調べる手順・方法
	1 どこを歩き、何を見るのか、何を調べるのか、あらかじめチェックしておきましょう。
	2 地域の方、博物館の学芸員、説明員に積極的に質問してみましょう。
	3 わかったこと、さらに調べてみようと思うことなど、メモしておきましょう。
4 写真も撮っておきましょう（ただし、写真は許可をえてから撮るようにしましょう）。	
5 調べたことを、レポートや地図にまとめ、グループやクラスで発表しましょう。	

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑥単元や資料等の配列・分量
方法	各時代区分のページ数

	総ページ	歴史との 対話	古代	中世	近世	近代	現代	その他
東書	304	12	44	36	50	102	32	28
教出	310	15	42	36	50	108	36	23
帝国	306	13	44	36	54	108	30	21
山川	294	9	48	40	52	100	30	15
日文	328	8	50	42	52	102	38	36
自由社	308	12	50	36	44	106	34	26
育鵬社	314	13	50	34	52	102	33	30
学び舎	306	6	44	32	50	110	36	28

【社会（歴史的分野）】

観点	(ウ) 内容の構成・配列・分量
視点	⑦主権者育成のための工夫
方法	古代，近代，現代における民主主義の来歴や人権思想の広がり の記載内容

	記載内容		
	古代	近代	現代
東 書	○ 「ギリシャ・ローマの文明」というタイトルで2ページにわたって記載し、「アクロポリスとパルテノン神殿」、「古代ローマの支配領域」等の資料を掲載している。	○ 「イギリスとアメリカの革命」、「フランス革命」というタイトルで、4ページにわたって記載し、「ボストン茶会事件」、「造営中のベルサイユ宮殿」等の資料を掲載している。	○ 「民主化と日本国憲法」というタイトルで2ページにわたって記載し、「日本国憲法前文」、「初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。
教 出	○ 「すべての道はローマに通ず」というタイトルで2ページにわたって記載し、「古代ギリシャの勢力範囲」、「古代ローマの水道橋」等の資料を掲載している。	○ 「代表なくして課税なし」というタイトルで2ページにわたって記載し、「独立当時のアメリカ合衆国」、「人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「敗戦からの再出発」、「平和国家をみざして」というタイトルで4ページにわたって記載し、「女性の国会議員の誕生」、「日本の憲法の比較」等の資料を掲載している。
帝 国	○ 「ギリシャ・ローマの政治と文明」というタイトルで2ページにわたって記載し、「ギリシャの民会の様子」、「ローマ帝国の貨幣」等の資料を掲載している。	○ 「市民革命の始まり」、「人権思想からフランス革命へ」というタイトルで4ページにわたって記載し、「アメリカ独立宣言の採択」、「フランス人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「新時代に求められた憲法」というタイトルで2ページにわたって記載し、「『あたらしい憲法のはなし』」、「初めての女性国会議員」等の資料を掲載している。
山 川	○ 「地中海文明の発展」というタイトルで2ページにわたって記載し、「重装歩兵」、「ローマ帝国の拡大」等の資料を掲載している。	○ 「市民革命の時代」というタイトルで4ページにわたって記載し、「独立宣言」、「バステューユ襲撃」等の資料を掲載している。	○ 「占領下の日本」、「日本国憲法と民主化」というタイトルで4ページにわたって記載し、「衆議院の女性議員」、「日本国憲法」等の資料を掲載している。
日 文	○ 「ギリシャ・ローマの文明」というタイトルで2ページにわたって記載し、「古代のギリシャとローマの動き」、「ローマ帝国の支配圏」等の資料を掲載している。	○ 「アメリカの独立とフランス革命」というタイトルで2ページにわたって記載し、「独立後に制定されたアメリカの国旗」、「フランスの三つの身分と税の負担に関する風刺画」等の資料を掲載している。	○ 「占領と改革の始まり」、「平和で民主的な国家をめざして」というタイトルで4ページにわたって記載し、「戦後の主な改革」、「日本国憲法公布の祝賀会」等の資料を掲載している。
自 由 社	○ 「ギリシャ・ローマの文明」というタイトルで2ページにわたって記載し、「サラミスの海戦と民主政の発展」、「大西洋から黒海沿岸を支配したローマ帝国」等の資料を掲載している。	○ 「イギリスの市民革命とアメリカの独立」、「啓蒙思想とフランス革命」というタイトルで4ページにわたって記載し、「アメリカ独立宣言」、「人権宣言」等の資料を掲載している。	○ 「占領下の日本」というタイトルで2ページにわたって記載し、「日本最初の婦人代議士」、「占領軍の進めた戦後の主な改革」等の資料を掲載している。

【社会（歴史的分野）】

育鵬社	○ 「ギリシャとローマの文明」というタイトルで2ページにわたって記載し、「アテネ民会議場の演壇」、「ローマ帝国の領域」等の資料を掲載している。	○ 「市民革命と近代社会の成立」というタイトルで2ページにわたって記載し、「アメリカ独立宣言」、「バスティーユ牢獄に攻め寄るパリ市民」等の資料を掲載している。	○ 「占領下の日本と日本国憲法」というタイトルで2ページにわたって記載し、「初めての女性国会議員」、「戦後の諸改革」等の資料を掲載している。
学び舎	○ 「円形競技場の熱狂」というタイトルで2ページにわたって記載し、「紀元前5世紀ごろのギリシアとペルシア」、「ローマ帝国の広がり」等の資料を掲載している。	○ 「アメリカの大地に生きる」、「バスチーユを攻撃せよ」というタイトルで4ページにわたって記載し、「ボストン港でのイギリスへの抗議行動」、「ベルサイユ宮殿へ向かう民衆」等の資料を掲載している。	○ 「焼け跡からの出発」、「もう戦争はしない」というタイトルで4ページにわたって記載し、「街頭演説をする山口シヅエ」、「『あたらしい憲法のはなし』」等の資料を掲載している。

観点	(エ) 内容の表現・表記
視点	⑧学習内容との適切な関連付けがなされた絵図・写真等の活用
方法	資料の種類と掲載数

	資料の種類と掲載数（近代の日本）						
	写真	絵図	地図	図表・グラフ	文書資料	年表	人物
東書	133	85	33	27	44	5	56
教出	123	86	28	32	21	7	51
帝国	136	85	40	38	2	4	53
山川	151	86	35	37	19	3	49
日文	105	78	35	37	31	38	49
自由社	85	78	29	16	58	5	42
育鵬社	89	74	34	36	17	10	77
学び舎	155	72	33	22	1	1	38

観点	(エ) 内容の表現・表記
視点	⑨掲載されている情報を精選し、視点を明確にする工夫
方法	ユニバーサルデザインに関する配慮がなされたフォント、グラフ、レイアウト等

	フォント、グラフ	レイアウト等
東書	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用し、ふり仮名の文字濃度を薄くしている。 ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一し、本文の部分と側注等の資料の部分の色分けしている。 ○ ページ隅の色分けで、学習内容を示している。
教出	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変え、実線で示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ○ ページの隅の色分けと下部への記載で、学習内容を示している。
帝国	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 ○ グラフの周囲を周りと違う色にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分けと、見開き右側の年表で、学習内容を示している。
山川	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページのレイアウトを統一している。 ○ ページの隅の色分けと下部への記載で、学習内容を示している。
日文	<ul style="list-style-type: none"> ○ ユニバーサルデザインフォントを使用している。 ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは縁取りして区切っている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変え、実線と点線で示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分け、見開き右側の年表と下部の記載で、学習内容を示している。
自由社	<ul style="list-style-type: none"> ○ 円グラフでは、グラフに文字や数値を入れている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ○ ページ隅の色分け、見開き左下部の年表と下部の記載で、学習内容を示している。
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふりがなにゴシック体を用いて、小さな文字が読みやすいようにしている。 ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れ、隣り合うデータは区切りを入れている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページ見開きのレイアウトを統一している。 ○ ページの隅の色分けと下部への記載で、学習内容を示している。

【社会（歴史的分野）】

学 び 舎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 円グラフと帯グラフでは、グラフに文字や数値を入れている。 ○ 複数のデータを表現した折れ線グラフでは、データごとに色を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文ページは、見開き2ページで学習内容をまとめている。 ○ ページ端の色分けで、学習内容を示している。
----------------------	--	--

観点	(オ) 言語活動の充実
視点	⑩目的に応じて適切に表現する力を育てるための工夫
方法	単元末における「時代の特色」をまとめる学習の具体例

具体例（中世の日本）	
東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中世の導入に設定した「中世では、どのような勢力の成長や対立が起こったのでしょうか。」という探究課題に対して、自分の考えを文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・探究課題解決の前に、探究のステップとして2題の「探究のステップ」という問いを用意している。 <ul style="list-style-type: none"> ①「なぜ武士は政権を立て、社会を動かすほどの力を持つようになったのでしょうか。」 ②「東アジアでの交流が進み、産業や文化が発達する中で、日本ではなぜ多くの戦乱が起こったのでしょうか。」 ○ 「中世とはどのような特色を持つ時代だったのでしょうか」という問いに対して、「政治」「国際関係」「社会・経済」「文化」の四側面から、自分の考えを文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・文章にまとめる前に、思考ツールに考えをまとめるように促している。 ・意見交換や、自分の考えの修正の方法を示している。
教 出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「中世がどのような時代だったかを表現し、その理由を説明しよう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・文章でまとめる前に、古代と中世を比較した表を、「政治」「外国との関係」「文化」の視点でまとめる学習活動を設定している。
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「この時代はどのような時代だったかを、自分の言葉で説明してみよう。」という問いに対して、自分が重視した歴史的な見方・考え方を明らかにして文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の特色をまとめる前に、2つの学習活動を設定している。 <ul style="list-style-type: none"> ①身分や職業について、「タテ（支配）とヨコ（対等）の関係図を作ってみよう。」という問いに対して、図で自分の考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒身分や職業を「武士」と「庶民」に分ける。 ⇒「武士」のまとまりは、「鎌倉」「室町」「戦国」の3つの時期に分けて、まとめる。 ②「章の問いの答えを説明しよう。」という学習活動に対して、自分の考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒自分の考えをまとめる前に、「なぜ、『武士』と『庶民』はそれぞれの結び付きを強めていったのか」等の問いに対して、話し合いをする。
山 川	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの立場（人）を示し、それぞれの立場で問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「武士」「農民」「守護」「荘園領主」の4つの立場を設定している。 ・自分の考えは、「鎌倉時代」から「戦国時代」の4つに時代区分のそれぞれでまとめる。 ○ 「海外から受けた影響」「宗教の果たした役割」に対して、自分の考えを文章にまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・両方とも3つの区分に分かれており、それぞれに自分の考えを文章にまとめる。

【社会（歴史的分野）】

日 文	<p>○ 「中世に定められた主な『法』に着目し、古代と比較しながら、中世の特色を考えていきましょう。」という問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを文章にまとめるために、3つのステップで学習を進める。 <ol style="list-style-type: none"> ①「古代と中世の主な法にどのような特色があるのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。 ②「なぜ、これらの法はつくられたのでしょうか。」という問いに対して、教科書の表の空欄に記入する。 ③中世の特色を、文章にまとめる。
自由社	<p>○ 中世という時代の特色を大つかみにとらえるために以下の問題を解いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史用語を3文で説明する「歴史用語ミニ辞典」をつくります。「中世までの日本」の章に登場する以下の歴史用語について、教科書をよく読み、p67の赤字の説明と下の例にならって、3文でノートにまとめてみよう。 院政 保元・平治の乱 守護・地頭 鎌倉幕府 御家人 執権政治 承久の乱 御成敗式目 元寇 建武の新政 後醍醐天皇 南北朝の内乱 室町幕府 足利尊氏 足利義満 日明貿易 守護大名 応仁の乱 戦国大名 ・ 中世という時代の特色を考えるために、次の2つの事項について比較してその違いをノートに書いてみよう。 <ol style="list-style-type: none"> ①平氏政権と鎌倉幕府 ②鎌倉文化と室町文化 ・ 北条時宗と足利義満は、中国とのかかわり方が大きく異なっています。どう違うか、まとめてみよう。 ・ 中世はひとことで言うと「○○」の時代だった。 この○○を埋めて200字以内の作文を作りましょう。 (例) 武士, 戦乱, 自力救済, 下剋上
育鵬社	<p>○ 「この時代はどのような時代だったといえるのか」といった問いに対して、自分の考えを文章にまとめ、クラスで話合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の手がかりとして、5つの活動を設定している。 <ol style="list-style-type: none"> ①年表の空欄に当てはまる言葉を選ぶ。 ②戦いについての整理をする。 ③この時代で最も重要だと思う人物を選び、理由をまとめる。 ④歴史的事象に当てはまる場所を地図上から選ぶ。 ⑤暮らしや社会の様子について、資料や前の時代の様子を参考にして説明する。
学び舎	<p>○ 「どのような人びとが力をもった時代だったのでしょうか。前の時代と比べながら、自分の考えを文章にまとめましょう。」と、視点を示した問いに対して、自分の考えを文章にまとめる。</p>